

ふるさとドクターネット広島

ふるさと通信

□■ 2008年9月 第2号 ■□

■発行者■ 広島大学医学部医学科広仁会 ふるさとドクターネット広島 会長 中谷 一彌

TEL (082) 255-5020 FAX (082) 256-5300 E-Mail doctor-net@cc.pref.hiroshima.jp

県内医療事情

■広島県医師会の主な活動

広島県のがん対策事業

・広島県腫瘍登録事業

この事業はがんの病理組織に関する資料に基づき、がん登録を行うもので、広島県におけるがんの罹患率、および生存率の推計等を行い、これのがん対策のための基礎資料とし、もって県民の保健衛生の向上に寄与することを目的に昭和48年に開始されました。以来、県内の施設からの登録件数は年々増加し、平成19年末には86万件超となりました。

平成17年からは「広島県地域がん登録事業」と一体化され、登録された病理組織診断の統計的資料情報はがん対策、がん治療等に役立つ有効な資料として活用される体制が確立しました。

全国で腫瘍組織登録事業を実施しているのは、広島県と長崎県の2県のみとなっています。

・広島県地域がん登録事業

本県では、平成14年10月からこの登録事業が実施され、がんの罹患状況の把握、対がん活動の評価、疫学研究への応用、がん検診の有効性評価と制度管理等の役割を果たすことにより、がん予防、がん医療の向上に資するなど公衆衛生の向上に寄与することが期待されています。

平成19年4月に施行された「がん対策基本法」に基づいて、平成20年3月に「広島県がん対策推進計画」が策定されましたが、この計画の中で、重点的に取り組むべき課題の一つとして「がん登録の推進」が位置づけられ、がん登録の普及啓発に努めるとともに、精度の高いがん登録システムの構築を推進することが掲げられています。

この事業については、毎年登録データを解析、評価し報告書としてとりまとめるとともに、関係各方面に配布し幅広く活用され、がん対策の推進に役立っています。

現在、広島県では、「広島県腫瘍登録事業」「広島県地域がん登録事業」の一体化、さらに、「広島市地域がん登録事業」を巻き込んだ3者の新たな関係構築を図るべく、さまざまな取組が展開されています。

医師会による学術講演会情報

日時	場所	開催内容	主催
10月 2日(木) 13:30~15:30	豊国工業株式会社	平成20年度 日本医師会認定産業医研修会	広島県医師会
10月19日(日) 9:30~17:00	広島医師会館	平成20年度 日本医師会認定産業医研修会	広島県医師会
12月 7日(日) 10:00~16:30	広島医師会館	平成20年度 日本医師会認定産業医研修会	広島県医師会
10月5日(日) 13:00~	呉市医師会館	平成20年度 かかりつけ医認知症対応力向上研修会	広島県医師会
10月18日(土) 14:00~17:00	広島医師会館	Medical Tribune C型肝炎セミナー	広島県医師会、 メディカルトリビューン、 シリング・プラウ株式会社
10月18日(土) 16:00~18:05	NTTクレドホール	心房細動治療ガイドライン公開セミナー	広島県医師会、 日本心電学会、 第一三共株式会社
10月3日(金) 19:00~	広島西医療センター	大竹外科会	大竹市医師会
10月6日(月) 19:00~	福山ニューキャッスルホテル	第27回 糖尿病合併症研究会	福山市医師会
10月7日(火) 19:00~	福山ニューキャッスルホテル	脳術後けいれん予防と管理に関する講演会	福山医師会
10月7日(火) 18:45~	三次グランドホテル	三次地区医師会学術講演会	三次地区医師会
10月9日(木) 19:00~	広島医師会館	広島市西区地域保健対策協議会講演会	広島市西区医師会
10月14日(火) 19:00~	三原国際ホテル	三原市医師会学術講演会	三原市医師会
10月14日(火) 19:00~	吉田総合病院南館	安芸高田市医師会学術講演会	安芸高田市医師会
10月15日(水) 19:00~	広島医師会館	広島市医師会第110回学術講演会	広島市医師会
10月15日(水) 19:00~	安佐医師会館	安佐学術講演会	安佐医師会
10月16日(木) 19:00~	松永沼隅地区医師会 保健福祉センター	松永沼隅地区医師会学術講演会	松永沼隅地区医師会
10月16日(木) 19:00~	広島県立総合リハビリテーションセンター 歩行解析室	第202回 東広島地区整形外科オープンカンファレンス	東広島地区医師会

※こちらに記載しているものは、10月以降の主な学術講演会情報です。

広島県からのお知らせ

■ 広島県の医療が面白い！

広島県では、県民一人ひとりが、安心して、健康で豊かに年を重ねられるよう、質が高く効率的な地域医療体制の確保を目指して、様々な施策に取り組んでいます。

今回は、救急医療の分野から、救急搬送先システム「こまっTEL」、
「ドクターヘリの事業」、そして「こどもの救急電話相談」について、ご紹介します。

広島県のユニークな取組み

連携体制	○ 行政・医師会・大学が連携して保健医療課題の解決に当たる「県地域保健対策協議会」（昭和44年設置） ○ 携帯電話メールを活用して救急搬送先の迅速な選定をサポートするシステム「こまっTEL」
救急	○ 2機の消防・防災ヘリを一元管理し、低コストで全県をカバーする独自のドクターヘリ事業 ○ 小児科開業医等による不急の受診をトリアージする広島発の「こどもの救急電話相談」
医師確保	○ 県外から離島へ、25年ぶりの医師常駐を実現した「ふるさとドクターネット広島」 ○ 市町の主体的な医師確保への取組を支援する総額5億円の「緊急医療支援市町交付金」
周産期	○ 産科医のネットワークにより実現した周産期死亡率が最も低い、「日本一安全にお産ができる広島県」
肝炎	○ かかりつけ医と専門医が連携した「肝炎患診療支援ネットワーク」の構築による、全国トップレベルの肝炎治療体制
乳がん	○ 検診から専門的治療、術後のケアまで、世界標準の治療を切れ目なく提供する「広島乳がん医療ネットワーク」構築へ着手

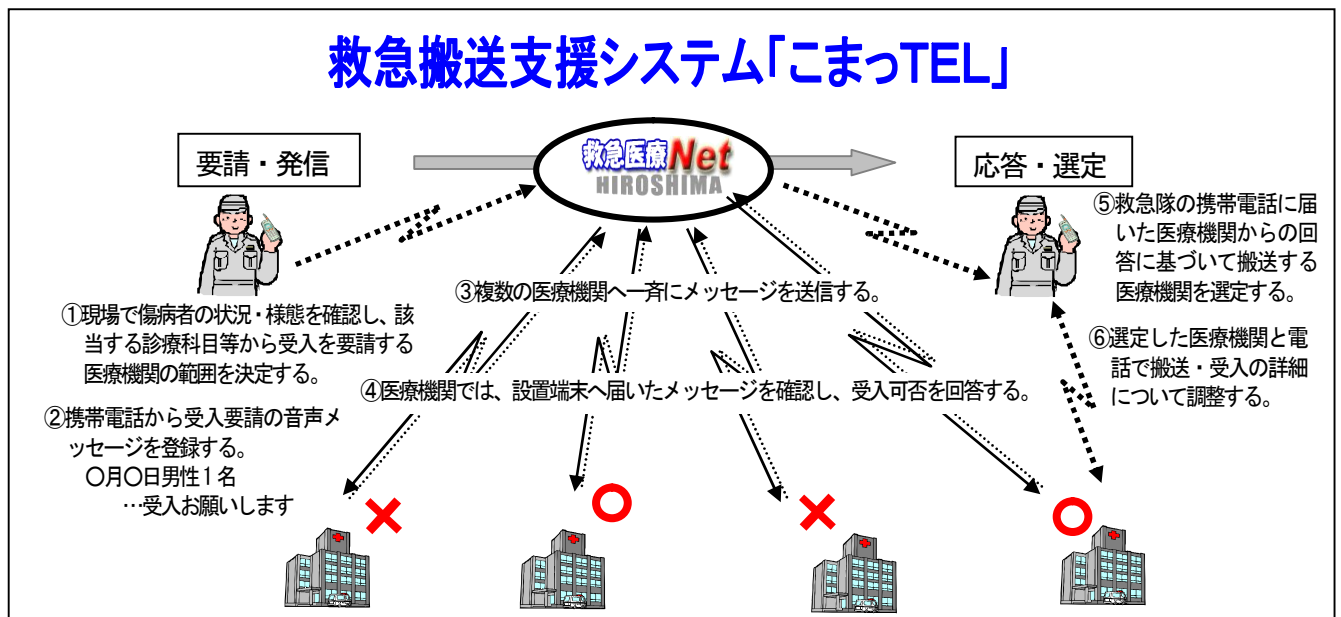
《救急搬送支援システム「こまっTEL」》

救急搬送先を探す際、これまでは、救急隊員が、現場から1医療機関ずつ順番に電話で受入要請を行っていたため、搬送先のなかなか決まらない場合にタイムロスが発生するという課題がありました。

こうした課題を改善するため、平成19年8月から救急搬送支援システム「こまっTEL」の運用を開始しました。

「こまっTEL」は、現場の救急隊が、搬送先の選定が困難な場合に、携帯電話を活用して複数の医療機関に対して一斉に受入要請を行うことができる広島県独自のシステムで、受け入れ可能な医療機関を少しでも早く、効率よく探すための一つの有効な手段となっています。

【運用実績】 19年度：197件（8月～3月） 20年度：90件（4月～6月）



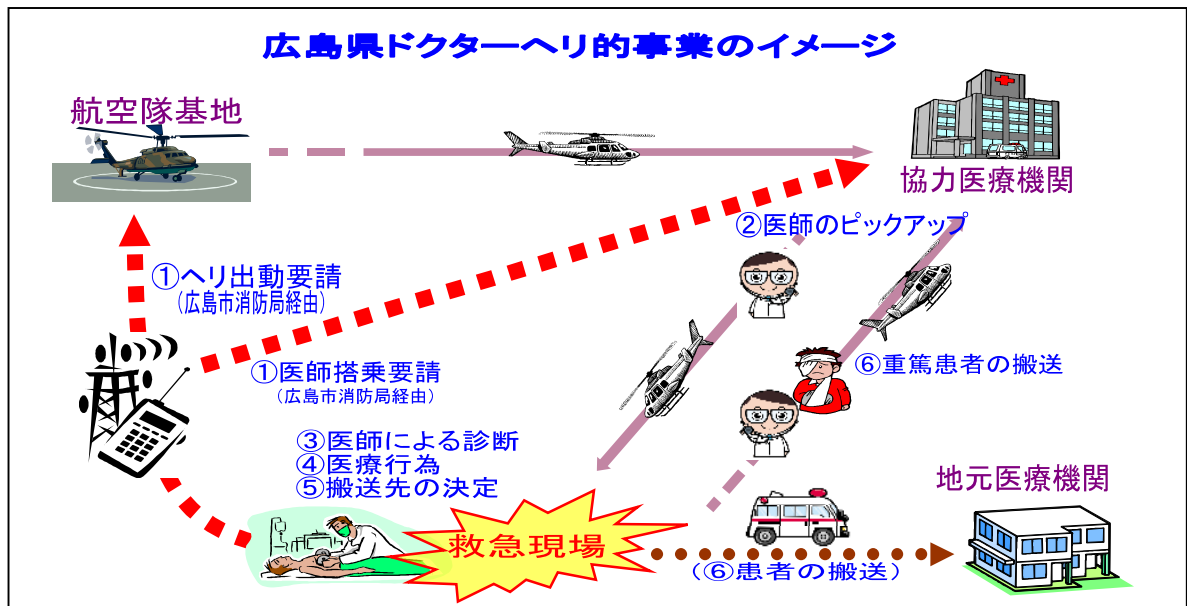
《消防・防災ヘリコプターによるドクターヘリの事業》

本県では、事故や災害等が発生した場合、医師や看護師などがヘリコプターで現場に向かい、救命治療が必要な患者の治療や搬送に当たる「ドクターヘリの事業」を、平成17年8月から実施しています。

全県からの出動要請を広島市消防局で一元的に受け付け、県と広島市が保有する2機の消防・防災用ヘリコプターのうち、どちらか直ちに出勤可能な機材を使用し、医師や看護師は、指定病院に立ち寄ってピックアップする方式であるため、専用ヘリコプターのように多額の運航経費を必要としないで、専用ヘリと同様の成果が得られることから、「広島方式」として全国の注目を集めています。

【運用実績】

17年度：41件（8月～3月）、18年度：39件、19年度：28件、20年度：7件（4月～6月）



《広島発の「こども救急電話相談」》

現在、各都道府県で実施されている「小児救急電話相談事業」は広島県が発祥です。

この事業は、主として休日・夜間の軽症患者の不安軽減と、小児科医療機関の負担軽減を目的として、平成14年9月から平成17年3月まで、広島県地域保健対策協議会が厚生労働省科学研究事業の採択を受け、全国に先駆けてモデル事業として実施したものです。

モデル事業期間中の満足度調査により利用者からも高い評価を得たため、国が補助事業として制度化し、現在は44都道府県で実施されています。



子どもの急な発熱・ケガなどで、すぐに受診すべきかどうか判断に迷った保護者に専門家がアドバイス

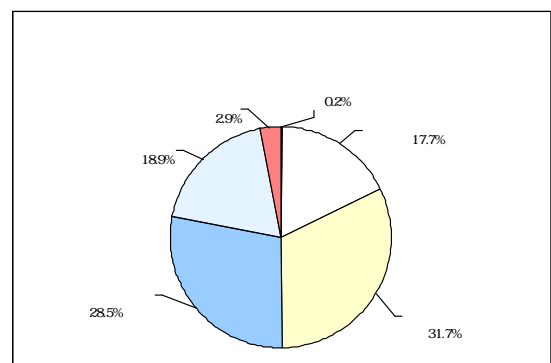
相談体制：小児科医（土日・祝日・年末年始）
看護師（平日）

受付時間：19時から22時（3時間）、365日

平成19年度の相談実績：4,382件

1日平均相談件数：約12.5件

相談内容：救急医療相談、一般の病気の相談、薬の種類や飲み方などの相談、医療機関の問合せなど



■ 「ふるさとドクターネット広島」登録医師の県内就業！！



～第2例目が決定しました。

「ふるさとドクターネット広島」をきっかけとして、広島県出身で大阪府在住の産婦人科医師 ^{たかやま やすもり} 高山 保守 先生が、8月18日、広島県尾道市の公立みつぎ総合病院に着任されました。

公立みつぎ総合病院では、19年度は年間140件程度の分娩を取り

【着任にあたっての抱負を語る高山先生】 扱っていましたが、医師1名体制では限界があることから、今年4月から分娩の取扱を休止していました。しかし、今回、高山先生が着任されることにより、産婦人科医師が2名体制となったことから、9月1日から分娩の取扱を再開しました。



【公立みつぎ総合病院】

高山先生は、着任にあたり、「ふるさとの医療に貢献したい」と抱負を語られました。

高山先生の着任は、「ふるさとドクターネット広島」登録医師が県内で就業した第2例目となります。

■ 平成20年度救急医療功労者知事表彰

救急医療対策の推進など救急医療の確保に貢献した団体及び個人について、その功績を称える「救急医療功労者知事表彰」が、9月9日「救急の日」に広島県庁で行われました。

今年度は、尾道市立市民病院（尾道市）と日本鋼管福山病院（福山市）の2団体、個人では ^{はたて まさもり} 旗手 正守さん（87歳、農業）と ^{ただ けいいち} 多田 恵一さん（61歳、医師）の2名が、表彰されました。

個人での表彰を受けられた旗手正守さんは、尾道市の離島である百島の救急患者の海上搬送を市から受託し、昭和47年から36年もの長きにわたり、島内で発生した救急患者を、本土の救急車まで自分の船で搬送してこられました。

表彰式では、知事から、県民の生命と安心を献身的に支えていただいた功績に対し、県民を代表して感謝の意が表されました。



【左から日本鋼管福山病院院長、尾道市立市民病院長、知事、旗手さん多田さん】

■ 「ひろしま健康づくり県民運動推進会議」設立記念大会開催

～「健康は県民みんなの願いです。」

一人ひとりの主体的な健康づくりを社会全体で支援するため、県や県医師会など21団体により、「ひろしま健康づくり県民運動推進会議」が平成20年7月22日に設立され、その設立記念大会が、9月3日（水）に広島県民文化センター（広島市中区）で開催されました。

当日は、一般県民など600名を超える参加者があり、県民の健康を応援する「ひろしま県げんき・健康大使」にタレントの緒方かな子さんら3名が委嘱され、また、「メタボ



リックシンドロームにならない『これだけ健康法』と題して、医学博士の^{まっばらえいた}松原英多先生の講演などがありました。

「ひろしま健康づくり県民運動推進会議」では、リーフレット「みんなで守ろう私たちの医療」を作成し、医師の不足や軽症患者の救急利用増加などにより、もしの場合に必要な医療体制の確保が困難な状況に対し、県民の理解を求め、安全・安心を支える「地域の医療」を守るための協力を呼びかけています。

みんなで守ろう 私たちの医療

～あなたも地域の医療を支える一員です～

ご存じですか？ 広島県の医療の現状

地域の救急病院では、休日や夜間の救急外来に患者が集中し、待ち時間が長くなったり、重症救急患者の円滑な受け入れが難しくなっています。

また、患者の病態の優先や受療マナーの悪化、過剰労働等の厳しい業務環境などにより、医師などの負担が増加しています。

●救急指示医療機関数の推移